

2013年度年次報告書

IVUSA Annual Report



特定非営利活動法人
国際ボランティア学生協会

2013年度 をふり返って

学生の社会のために何かしたいという夢を応援する「夢企画」はIVUSAの原点であり、2013年10月に新規事業コンテストという形で「夢企画」を実施しました。IVUSA全体としても、カナダでの東日本大震災の震災漂着物の撤去活動や、静岡県西伊豆町や伊豆諸島の利島の活性化活動といった新規事業を生み出しました。これらの活動は様々なメディアで取り上げられました。

より活動の質を高めるとともに、参加した学生の学習の深化を図るために各種研修プログラムの制度を確立しました。そして、研修を行うことができる学生のインストラクターの養成に力を入れました。

関西の大学を中心に会員数が増加し、2,250名を超えました。また、2013年度の事業の参加者は延べ5,639人、学生のボランティアの総活動時間数は87,279時間でした。

これらの活動は、皆さまのご支援とご協力があったのもであり、心から感謝を申し上げます。

2013年度年次報告書Contents

代表よりご挨拶	…2
IVUSAのビジョンとミッション	…3
社会の課題に挑戦	
国際協力事業	…4
環境保護事業	…8
地域活性化事業	…12
その他の事業	…18
災害に備えた体制作り	
災害救援事業・復興支援事業・防災事業	…20
社会から必要とされる人材の育成	
研修事業・各大学クラブの運営サポート事業	…27
2013年度学生組織図	…30
会計報告	…31
資料（各プロジェクトの総活動時間数・参加者大学一覧）	…32



ご挨拶

昨年度は、国際協力活動に250名（8事業）、環境保護活動に1,296名（24事業）、地域活性化活動に1,551名（27事業）、災害救援活動に761名（15事業）が、それぞれ現地に赴き「学生だから出来る」活動に汗と涙を流してきました。

また、昨年度所属する会員は、90大学2,250名となり、規模、活動の質・量ともに日本最大の学生ボランティア団体となっているようです。

昨年度の3月11日は、東日本大震災発生から3年が経ち、これまで44回、3,266名を超える学生が復旧・復興活動に関わってきましたが、被災地の復興はまだまだ進んでおらず、そもそも地方が抱える過疎・高齢化という根本的な問題が大きく立ちはだかっています。

これらの難しい課題に対しては、若者の大胆な発想とネットワークを駆使し、新たにビジネスの手法（ソーシャルビジネス）を用いて解決していくことにチャレンジしていかなければならないと思っています。

それにしても、3回目となった気仙沼市の追悼式には120名の学生がボランティアとして参加し、未だ苦しんでいる住民を目の当たりにしてきました。同時期に、津波による瓦礫が大量に流れついているカナダのバンクーバーにおいて、学生70名が瓦礫の撤去作業を行い、地元を含め、多くの方々から暖かいご支援をいただきました。改めて御礼申し上げます。

これらの活動を通じて、学生たちはそれぞれに学び、成長しておりますが、学生の本分は勉学にあることは言うまでもありません。ただ、社会に出て必要とされるコミュニケーション能力を高めることは、社会人として必要不可欠な要素でもあります。IVUSAの活動は何と言っても、人とのコミュニケーションが基本にあります。それは、学生が社会に出る前に身につけておくべき社会人基礎力の向上の場とも言えるでしょう。

IVUSAでは国内外を問わず様々な分野で活動を行っていますが、それぞれが活動の成功を目指してチームを形成し、互いに切磋琢磨しながらチームワークを習得しています。

また、活動を行う地域では、国内外問わず様々な文化や価値観があり、さらには厳しい環境で生きる人たちとの触れ合いがあります。その人たちとのコミュニケーションによって、生きることの厳しさや人間の強さ、そしてやさしさを学び、人間的な成長を遂げています。

IVUSAでは、これら活動の質をより高いものにするため、スキルアップトレーニングとして、応急救命や身の回りの危機について学ぶCMT（Crisis Management Training）、自己理解、他者理解を深めるHRT（Human Relations Training）、さらに活動の背景にある社会的課題や問題解決の手法を学ぶSRT（Society Reflect Training）などについての講習を、全会員を対象に行っています。

今年も、「熱意は人を動かし、社会を動かす」をスローガンに掲げ、若者の持つパワーと感性を活かして社会に貢献して参ります。

皆様方のご支援・ご協力を一層賜りますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会
代表理事 下村 誠

私たちの目指す社会

私たちが活動を行う場所には、衣食住に困っている人たちがいます。また、私たちとは異なる生活環境、文化、価値観を持った人たちがいます。

この人たちと寝食を共にすることで、人間の強さや多様性に気づき、特に物質的に恵まれなくても、助け合いながら心豊かに生きている人たちがいることを知ります。

心の豊かさは、「お互いを必要としている」という関係性と一体であり、IVUSAは、これら物心両面のバランスを考え「共に生きる社会」の構築を目指して活動を行っています。

私たちのミッション

社会の課題に挑戦

若者の柔軟な発想とマンパワー、さらには学生という「しがらみのない」ニュートラルな立場を活かし社会の課題解決に挑んでいます。現在は主に、国際協力・環境保護・地域活性化などの分野で様々な活動を行っています。

社会から必要とされる人材の育成

学生たちは活動を通して、社会人基礎力を身に付け、何より「人に必要とされる」喜びを知ることで、社会を支える人材として成長しています。そのために活動前に各種研修を実施するとともに、活動後のリフレクション（ふり返し）を重視しています。

災害に備えた体制作り

災害が発生した時、迅速に被災地に入り、救援活動を行います。また、災害に関する研究やスキルアップトレーニングを随時実施しています。



国際協力事業

世界には貧困や格差、環境問題など様々な問題を抱えている地域があります。グローバル化が進んだ現在、これらの問題は私たちと無関係の問題ではなくなっています。

IVUSAでは、カンボジアでの学校建設活動やインドでの住宅建設活動などを行っており、現地の方とできるだけ同じ目線に立った活動を目指しています。そして、直接交流をする中で生まれる現地の人々との絆を大切にしています。また一方で、国内でも募金活動やイベントなどを通じた支援活動を行い、「現地のために何が出来るか」を真剣に考えています。

第6次カンボジア学校建設活動



【日程】8月16日～25日

【場所】カンボジア・コンボンチャム州プライコイ村

【参加者】43名

【活動内容】

ポルポト政権下における教育環境の破壊が行われたカンボジア王国にて、健全で適切な教育環境を整えられるよう、学校建設などを通じた教育支援を行った。今回は2008年にIVUSAが建設した小学校に隣接する、図書館を建設した。

【成果】

- ・建築面積40㎡の図書館を建設。
- ・蔵書として国内外のものあわせて約100冊の本の寄贈。
- ・カンボジア内務大臣からの表彰。現地新聞社からの取材。

【課題・今後の方向性】

建設資金の確保が、毎年の課題となっている。街頭募金以外での建設資金の確保を確立させる必要がある。また、教育支援という側面から見れば、学校建設以外のアプローチ方法を検討する必要がある。

【協力・協賛】

株式会社アーテック、株式会社井関食品、北星鉛筆株式会社、株式会社世界地図、高橋酒造株式会社、株式会社テラモト、街頭募金協力者約27,000名



第10次中国緑化プロジェクト



【日程】10月19日～27日

【場所】中国・遼寧省朝陽市建平県

【参加者数】9名

【活動内容】

現地該当地域の自然環境や土壌条件を考慮し、適応性と活着率が高く、土砂や砂を固め土壌流出を防ぐ防砂林、コノテガシワの植林作業。また、灌水作業や土壌整備等植林するために必要な作業を行った。

【成果】

総植林本数約109株（コノテガシワ）、土壌整備のために携わったクレーターの数約164箇所。

【課題・今後の方向性】

2014年にカウンターパートである中国青年国際人材交流中心が改編され日本事業部が閉所、韓国含めた東アジア地区事業部に吸収された。今後も日中の外交問題による影響を受けることとなるだろう。民間による友好交流プログラムの必要性はますます高まっていくと思われるが、本プロジェクトの今後の継続について方向性を定める一年となる。

【協力・協賛】中国青年国際人材交流中心、共産党青年団建平県委員会、建平県林業局関係者、建平第二中等学校



第7次インド住宅建設活動



【日程】2月19日～28日

【場所】インド・ウッタラカンド州

【参加者】74名

【活動内容】

2013年6月17日、北インドのヒマラヤ山脈のふもとに位置するウッタラカンド州で豪雨が 발생し、洪水や土砂崩れで、35,875棟もの家屋が倒壊し、1,532人が亡くなった（2013年9月22日、インド政府）。半年以上たった今も被災前の生活に戻れない人も多く、未だに復興の兆しは見えていない。この現状に対してIVUSAは、被災して家を失った人々が「人間らしい生活」を送れるよう世界的に慈善活動を行なっている「M.A.Math」と共に住宅建設活動を行った。

【成果】

- ・「M.A.Math」が行なう住宅建設プロジェクトの参加させていただき、コミュニティーセンター建設の資材の運搬、住宅2軒分のセメント作業等基礎になる工事に従事できた。

- ・住宅建設活動を被災された住民と当協会学生が作業を行なうことで、学生と住民との交流が出来た。活動終了時には、住民と学生が肩を組み、涙を流し歌った。

【課題・今後の方向性】

- ・短期間の活動にであったため、住宅建設の一部の作業に従事することが出来たが、住宅を建設する活動にはもう少し活動期間を長くする必要がある。

- ・インドでの活動として、衛生問題に着手するという提案が現地の関係者からあった。具体的には、清掃活動やトイレの設置、手洗い活動などを展開するとの内容であった。今後、双方で検討して行く。

【協力・協賛】

カウンターパート「M.A.Math」



カナダ海洋漂着瓦礫撤去活動～愛、つなぐプロジェクト～



【日程】3月7日～15日

【場所】カナダ・ブリティッシュコロンビア州

【参加者】72名

【活動内容】

カナダを拠点にする「JAPAN LOVE PROJECT」との共催プロジェクト。2011年3月11日の東日本大震災で海洋に流れ出た漂着物が北米大陸に流れ着くピークが2014年春といわれている。そうした海洋漂着物の回収と、東日本大震災の時にたくさんの支援いただいたカナダに対し感謝の気持ち伝えることを目的として、3月の寒さの残るカナダで70名の日本からの大学生が8日間の滞在で、漂着物の撤去・分別作業、ならびにカナダ現地でIVUSA被災地支援の活動報告会を行なった。



【成果】

- ・ユークレットに漂着している海洋漂着物（約7トン）の撤去及びそれらの分別回収作業の完了
- ・現地で報告会・交流会を実施し、現地の学生、日系人の方々など約200人が参加
- ・震災企画として、現地での追悼式の開催、メモリアルイベントの参加
- ・メモリアルイベント内で宮城県山元町と記載された漂着物の「杭」をユークレットの市長さんより、「君たちの手で日本に届けてほしい」と贈呈していただいた。

【課題・今後の方向性】

ユークレット市からお預かりした山元町の杭を被災地へ届けに行くと同時に、カナダ現地もピークが過ぎたとはいえ漂着が終わるわけではなく、すでに流れ着いて回収されていない漂着物などもある中で、現地との連携を取り続けていく。

【協力・協賛】

共催：JAPAN LOVE PROJECT

【メディア掲載】

（日本）NHK ロサンゼルス支部、NHK ラジオセンター、BSフジ、SBSメディアビジョン、朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日本海事新聞

（カナダ）Global News, Westerly News, CTV News, Check News, CBC Radio, The Peak 102.7

【カナダ海洋漂着瓦礫撤去活動～愛、つなぐプロジェクト～にご協力いただいた皆様】＜順不同・敬称略＞

・個人・企業協力

WAA、黒澤司、無学寺 竹内文成、天寧寺、鷹峰啓明、山路純、池田工業株式会社、有限会社興伸製作所、ヒラテ産業有限会社、川端徹、株式会社MAQ、本田公昶、一般社団法人JEAN、福岡県星野村ザ・リステルホテル、JTB インターナショナル・カナダ、みんなのコンビニ屋、ユークレットコミュニティセンター、パシフィックリム自然国立公園、ロイヤルカナディアン・マウントポリス、サンバードリサイクル、Jamie's Whaling Station, Subtitle Adventures, Christ Community Church <順不同・敬称略>

・クラウドファンディングサービス「Ready for?」を通じた寄付

上堂由貴、加藤朝子、寺岡剛志、迫田敏也、夢田慎二、長岡正裕、柳田啓之、渥美明、Aubrey Iral、小林知博、さとうけんじ、古屋宏子、苅込里佳、速見恵、松尾豊、松田絢子、秋元和子、平井啓、爲我井由美子、梅田尚、稲葉エツ、土橋弘、平間厚広、山本裕子、奥平大、半田素味子、中島誠、牧野けい、沖野聖史、櫻井太郎、笹雄貴、関口智夫、安藤かがり、魚野剣太郎中小企業診断士事務所、金子道代、金子奈緒美、藤田航介、斎藤史朗、田中照世、新原稔貴、堂前梢、まえかわみねこ、小野研介、内山大輔、奥野洋子、国光正規、岡本西里、古田いづ実、山崎努、熊谷真千子、三枝丈哲、崎村令子、吉原健吾、松本卓也、(有)よしせん、福岡秀美、芦谷葉子、吉永康照、菊谷亮、宮本孝之、吉岡和美、小宮光宏、福地寛、糸数由里、田之畑留美、粟井利彦、鈴木美也子、高井美喜恵、西島亜紀、高橋隆史、朝来野悟、中村奈良江、川村あやみ、須藤茂樹、高桑麻衣子、梶井俊幸、石栗由佳、光武耕太郎、小泉光枝、端無徹也、武井洋一郎、佐藤剛司、神田将二、高井英造、田口晃博、富松裕、古賀武仁、ミチコ・ウォルレーブ、中林靖、宮澤香里、中村奈良江、原田健一、桑名知春、大田怜史、川南麻衣子、横田直也<順不同・敬称略>

ネパール山村支援活動



【日程】3月3日～19日

【場所】ネパール・ルンビニ県パルパ郡プトウケ村

【参加者】21名

【活動内容】

電気ガス水道の無いネパール山奥の村に、排泄物からガスを取り出すバイオガスの施設を設置することで、ガスや電気を作ることができて村の生活を支援すると同時に、燃料となってしまう灌木の保護、薪集めの時間の削減を初等教育などに充てられる時間的余裕などを造り出す。また、今回はカウンターパートの垣見一雅氏のネパール支援20周年ということで、ネパールの人たちが行った式典に列席して賛辞を呈した。

【成果】

5基のバイオガス設備の設置資金の提供と設備基礎工事。基礎工事は住民と当協会学生が作業を行なうことで、学生と住民との交流が出来た。活動終了時には、住民と学生が涙を流し、現地に学生の元気を置いてくる活動が出来た。

【課題・今後の方向性】

過酷な環境での作業や生活には直接的・間接的な危険を伴い、簡単に行って取り組めるような環境では無く、参加者の基礎訓練も必要であることなどから、連続的・継続的な活動実施の困難さがあるが、今後もカウンターパートの垣見さんからの情報を基に有意義な取り組みを判断して支援を継続していく方針。

【協力・協賛】（敬称略・順不同）

・カウンターパート 垣見一雅、Rosh Pradhan, Rohit Pradhan, Diwakar Maskey

・ファンドサポート 株式会社OzVisionクラウドファンディング事業エメラルド・福田憲繁ほか8名、眞浄睦・藤田充ほか過去ネパール隊参加卒業生16名

・物品協賛サポート 日本製紙クレシア株式会社、株式会社金冠堂、サラヤ株式会社、日進医療器株式会社、健康体力研究所、アズワン株式会社



留学生との交流会



【日程】9月26日、3月19日

【場所】代々木公園

【参加者数】留学生120名、IVUSA学生25名

【活動内容】

青山国際教育学院の「日本人学生との交流」のカリキュラムの一環として、IVUSA学生が同学院に在籍するアジア圏留学生と交流企画を行う。留学生と一緒に身体を動かすことで交流を深め、学生同士の異文化理解のきっかけ作りを目指すとともに、留学生の日本語学習・日本文化体験学習支援を行う。

【成果】

参加した日本人学生と留学生とで連絡先を交換し合うなどの、個人同士の繋がりを作ることが出来た。

【課題・今後の方向性】

参加する留学生の中でも日本語習得レベルに差があり、全体でのコミュニケーションがうまくいかない場面もあった。IVUSAからの参加者数を増やし、個々でのコミュニケーションを取りやすい環境を作る必要がある。

【協力・協賛】青山国際教育学院

環境保護事業

我々の生活が便利になっていく中で環境問題が深刻化しています。地球温暖化・砂漠化・大気汚染など大きな問題が出てきています。しかし専門知識のない私たちが何かしようと思ってもなかなかできないものです。

そこでIVUSAでは活動や地域の方との交流を通し、学生や地域の方々（特に子どもたち）が環境問題を理解し、自分自身の問題として感じられるきっかけを提供していくことを目指しています。

第12回九十九里浜全域清掃大作戦



- 【日程】 8月29日～9月1日
- 【場所】 千葉県九十九里地域
- 【参加者】 361名
- 【活動内容】

千葉県九十九里浜海岸全域（66km）の清掃、地域の子どもたちへの環境保護意識の啓発、地元住民と清掃参加者の大交流会

- 【成果】
- ・回収したごみの総量：846袋（約2.1t）
- ・地域の子どもたちの参加：6団体82名

【課題・今後の方向性】

回収するゴミの量は年々減ってきているが、砂浜の減少や生物多様性の面での課題は存在する。清掃活動を通した環境保護意識の啓発や、子どもたちに対する環境教育は引き続き必要であると考えている。

【協力・協賛】

- ・協力：千葉県旭市、匝瑳市、横芝光町、山武市、九十九里町、大網白里市、白子町、長生村、一宮町、いすみ市、(株)オンザウェイ、大里綜合管理株式会社、加藤光男
- ・協賛：赤穂化成株式会社、井関食品株式会社、株式会社マンナンライフ、カルピス株式会社、三立製菓株式会社、日本たばこ産業株式会社、モンスターエナジージャパン合同会社、山芳製菓株式会社



第21回多摩川清掃大作戦



- 【日程】 11月23日
- 【場所】 東京都世田谷区、神奈川県川崎市の多摩川沿岸
- 【参加者】 143名
- 【活動内容】

多摩川河川敷・河川内の清掃活動（世田谷区全域・川崎市高津区）、炊き出しの配布（災害飯：アルファ化米、豚汁）、二子玉川ピクニック公園でのレクリエーション

- 【成果】
- 可燃ゴミ85袋、不燃ゴミ21袋、資源ゴミ12袋、その他 粗大ゴミ多数、参加地域住民147名

【課題・今後の方向性】

今回でIVUSA発足当初より継続していた活動に一端の区切りをつけることとなった。河川美化が進み一定の成果が達成されたという判断である。今後は親水河川として地域に根差したイベントを企画するなどの展開を考えていく。



【協力・協賛】

ラブリバー多摩川を愛する会・二子玉川商店街振興組合、国士舘大学スクーバダイビングチーム、公益財団法人車両競技公益資金記念財団、株式会社オンザウェイ

・後援

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所・世田谷区・世田谷区教育委員会・川崎市・川崎市教育委員会

・社員参加企業

株式会社 高島屋、株式会社 ダイダマン

・協賛品提供企業

株式会社ヤクルト本社、日本たばこ産業株式会社、山芳製菓株式会社、ライオン菓子株式会社、カルピス株式会社

滋賀県東近江市里山保全活動



【日程】 4月21日、4月28日、5月4日～5日、5月19日、6月16日、7月14日、9月15日～17日、11月17日

【場所】 滋賀県東近江市愛東地区

【参加者】 延べ393名

【活動内容】

滋賀県東近江市愛東地区の里山は、かつて子どもたちが遊び、マツタケなどの資源が採れ、人々の生活の一部にあった場所であった。しかし、里山は次第に人々の生活から離れ、徐々に荒廃していき、人の寄り付かない場所になってしまった。

IVUSAは失われた愛東地区の里山の自然を取り戻すため、森林整備を通して里山保全、森林再生を目指している。また、愛東地区の農業を支援（援農）することにより地域の方との交流を深め、里山保全への取り組みに繋がるように支援を行なっている。地域コミュニティの拠点となる人の集まる里山を作りだし、そのコミュニティのハブとなることを目指し活動を行なっている。

【成果】

- ・年間活動数9回
- ・区画内整備100%完了（約2,500㎡）
- ・区画外整備着手
- ・新規援農家10件獲得
- ・総援農農家数16件
- ・コトナリエ運営スタッフとして参加

【課題・今後の方向性】

課題は目的と運営体制の見直しのため、一旦活動を休止する。

【協力・協賛】

NPO法人愛のまちエコ倶楽部、東近江市商工会湖東市部 コトナリエ実行委員会、愛東地区の農家の方々



神奈川県横浜市「こどもの国」竹林整備活動



【日程】

- 第1回 5月26日
- 第2回 6月23日
- 第3回 7月21日
- 第4回 9月2日～9月3日
- 第5回 10月27日
- 第6回 11月10日
- 第7回 12月8日
- 第8回 1月19日
- 第9回 3月1日～3月2日

【場所】神奈川県青葉区こどもの国

【参加者数】延べ229名

【活動内容】

神奈川県横浜市青葉区にある「児童厚生施設こどもの国」において、竹林整備活動や、園内景観の改善を行った。

【成果】月1回という継続的な活動としての目的を達成できた。

【課題・今後の方向性】

今後は近隣の小中学生などとも一緒に活動するような企画を考えていきたい。

【協力・協賛】

児童厚生施設こどもの国



表浜Blue Walkに参加



【日程】8月22日～25日

【場所】愛知県渥美半島表浜海岸

【参加者数】23名

【活動内容】

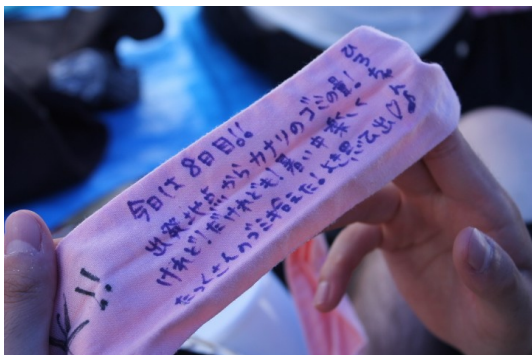
表浜BLUEWALKは、虹のとびらという団体が愛知県渥美半島に広がる表浜海岸50km全域を10日間かけて清掃する活動で、2013年は8月15日から24日まで行われた。表浜では毎年アカウミガメの産卵が見られるが、近年ゴミ問題や浜の人工化などで、産卵行動が阻害され、砂浜を何時間もさまよひ、その挙げ句にブロックに挟まり死んでしまうこともある。今回、IVUSAは参加団体として最後の3日間（8月22日～24日）参加させていただいた。

【成果】

IVUSAの中部地方進出の足掛かりを作ることができた。

【課題・今後の方向性】

距離が離れていることもあり、どのように役割分担をしながら進めていくかが課題。



淀川ワークショップ



【日時】5月26日、11月24日

【場所】大阪府高槻市三島江

【参加者数】191名（IVUSA学生 123名、一般参加者 68名）

【活動内容】

三島江地区の草刈り・ワンドを埋め尽くす外来植物の除去・ヤナギの木の撤去・意見交換会・ヤナギの木を使った子ども対象のワークショップ

【成果】

淀川河川レンジャーの皆さんや一般参加者を含む意見交換会を実施。本年2回目の活動で、そこで出た意見を取り入れた活動を実施することができた。

【課題・今後の方向性】

一般・子どもの参加者の巻き込み。今後、環境教育を目的とした活動を展開するにあたり、地域の子どもたちを巻き込むことが肝要である。

【協力・協賛】

淀川管内河川レンジャー、NPO法人シニア自然大学 高槻支部 ネイチャーたかつき、国土交通省 淀川河川事務所



琵琶湖オオバナミズキンバイ除去作戦



【日程】4月28日、6月9日、8月9日、9月14日、10月12日、11月16日、12月22日、3月1日（計8回）

【場所】滋賀県大津市、守山市

【参加人数】計201名

【活動内容】琵琶湖南湖に繁殖した外来植物であるオオバナミズキンバイの除去

【成果】

- ・約30tのオオバナミズキンバイを除去できた
- ・水中、船上からの引き上げなどの重労働において学生の力が発揮できた

- ・他団体と連携、協議をとりながら進めたことにより、作業の効率化をはかり、より多くのオオバナミズキンバイを除去することができた

- ・立命館大学の講義内（近江・草津論）、ボランティアフェスタ、IVUSA会員が所属する滋賀大学（彦根）、龍谷大学（瀬田）、立命館大学（草津）の学園祭での展示、2月1日草津市子ども環境会議、2月15日第11回守山川づくりフォーラムを通じて地域住民にオオバナミズキンバイの現状を広報することができた

- ・行政、環境団体と協力しオオバナミズキンバイのピラ、パンフを製作でき、広報手段の幅が広がった

【今後の課題】

オオバナミズキンバイは南湖全体に生息範囲を広げており、人数規模、作業方法、乾燥させるための仮置き場、焼却処分の問題を含め、環境団体や地元住民、漁協、関係自治体などと幅広い地域でのつながりを作り、情報交換、協力しながら継続的に取り組んでいく必要がある。

【協力】滋賀県自然環境保全課、近江ウェットランド研究会、立命館大学、守山市、NPO法人びわこ豊穰の里、新守山川を美しくする会、玉津小津漁業協同組合、立命館守山高校、株式会社ラーゴ、株式会社PASCO、株式会社積水化成



地域活性化事業

現在、全国各地で過疎化、少子高齢化が進んでいます。IVUSAでは、災害救援で築かれたつながりや出身学生の地元を盛り上げたいという思いから、新潟県や三重県を中心とした地域活性化の活動を行っています。活動内容はお祭りやイベントの運営のサポートや農業体験、地元の方との交流会など多岐にわたっています。下記の他にも関川村で冬に行われる「どもんこ祭り」「雪ほたる祭り」、十日町市で夏に行われる「清津ピクニックコンサート」、熊野市で春に行われる「梅祭り」などの運営にも携わっています。

新潟県十日町市清津ピクニックコンサート活性化活動



【日程】8月9日～11日

【場所】新潟県十日町市

【参加者】52名

【活動内容】

新潟県十日町市で実施している「十日町ビジネスコンテスト」にてIVUSAの会員が提案した「野外クラシックコンサート」というビジネスプランが第2位となり十日町市により事業化された。SNSの発信、ポスター貼り等の首都圏での広報活動、当日の運営補助、オーケストラのサポートなどを行った。

【成果】

国内最大規模の屋外クラシックコンサートだったが、約2,000名が来場し、成功裏に終わることができた。

【課題・今後の方向性】

社会の課題に対してマンパワーのみで解決することだけでなく、経済活動を取り入れたコミュニティビジネスの開発を、学生の柔軟な発想を活かしながら進めていく。

【協力・協賛】

協力：新潟県十日町市、清津ピクニックコンサート実行委員会



新潟県関川村「大したもん蛇まつり」活性化活動



【日程】8月23日～26日

【場所】新潟県岩船郡関川村、新潟県燕三条市旧下田村

【参加者】201名

【活動内容】祭り運営補助、孫の手ボランティア（*住民のニーズに対するボランティア活動）の実施、大交流会、その他プログラム

【成果】

- ・計21件の住民のニーズに合わせたボランティア作業の実施
- ・過去最多の約150名の住民が交流会に参加
- ・10回目という節目の活動ということで、「ありがとう、関川村」を掲げ、孫の手ボランティアの実施等、例年よりさらに住民の方々と一対一のコミュニケーションができるプログラムを新たに実施。祭りとともに、住民の心の活性化を図ることができた。

【協力・協賛】

新潟県関川村役場、関川村役場IVUSAサポーターズチーム、関川村おりの会、NPO法人渡辺家、たらんペクラブ、その他住民の皆様



新潟県関川村「おいしいどもんこまつり」活性化活動



【日程】2月7日～9日

【場所】新潟県岩船郡関川村

【参加者】58名

【活動内容】

祭りの準備、運営補助、IVUSAブースの出展等

【成果】

・翌週に予定していた「七ヶ谷雪ほたるまつり」とともに、Facebookを活用し、全国に向けて関川村の冬の祭りやIVUSAの活動を発信することができた

・IVUSA活動報告会を実施。村民約50名に会場していただき、相互理解につなげることができた。（活動期間を利用し、今後の関川村との協働に関わる展開について協議、具体的な計画を組むことができた）

・新潟日報からの取材・記事掲載

【協力・協賛】

新潟県関川村役場、関川村役場IVUSAサポーターズチーム、大石山と川に親しむ会、関川ゼミナール、糸びすや旅館、古川館

※2月15日～17日で予定していた「七ヶ谷雪ほたるまつり」活性化活動は大雪による交通網の麻痺のため、中止になりました。



新潟県十日町市「十日町雪まつり」活性化活動



【日程】2月14日～17日

【場所】新潟県十日町市

【参加者】60名

【活動内容】

2011年に起こった水害で共に活動した地元住民の「地域の若者の起爆剤になってほしい」という想いから始まった活動。近代雪祭り発祥の地とされ、今回で第65回を迎える十日町雪まつりの運営補助、地元高校生に対する愛郷心の醸成及び社会貢献意識の啓発を目指す。

【成果】

・高校生ボランティア：3名

・十日町の特産品を使った露店で400食販売（特産品PRの一助）

・十日町青年会議所との交流会

【課題・今後の方向性】

十日町市内や周辺地域には大学がないため、18～22歳の人口が少ない。今後より地元高校生との協働に力を入れていくことで、地元高校生の社会貢献意識や愛郷心の醸成を図る。

【協力・協賛】

協力：公益社団法人十日町青年会議所



新潟県十日町市「雪原カーニバルなかさと」活性化活動



【日程】3月9日～11日

【場所】新潟県十日町市

【参加者】140名

【活動内容】

十日町市(旧中里村)出身の当時の学生が「IVUSAの仲間とともに地元を盛り上げたい」という思いから始まった活動。

スキー場のゲレンデ一面にキャンドルを灯す幻想的なイベントである、雪原カーニバルの運営補助、SNSによる地域情報の発信。

【成果】

・十日町市長や市議3名をはじめとする地元住民約50名との交流会を実施

・約3万本のキャンドルの設置・点灯・回収

・巨大かまくら2基の新規作成

・祭りをより盛り上げる為の雪像4基作成

【課題・今後の方向性】

IVUSAの学生にとっても人気の高い事業であり、大規模な活動である。今後このマンパワーをより活かした事業展開を目指す。

【協力・協賛】

新潟県十日町市、雪原カーニバルなかさと実行委員会



静岡県西伊豆町活性化活動



【日程】2月20日～23日

【場所】静岡県西伊豆町

【参加者数】52名

【活動内容】

2013年7月18日に西伊豆でおきたゲリラ豪雨の際に、その復旧活動にボランティアとして入ったのがきっかけとなり、2011年の台風15号の塩害により大きな被害を受け放置されていた黄金崎の松を、地域の方々と一緒に炭焼きの技術を使って再生を目指す。

【成果】

作業させていただいた3日間で、黄金崎の遊歩道周辺の松の成長を妨げる腐葉土の除去、整地専門家によって選定された松の修復作業をおこない、予定していた区画のニーズを完遂した。また、今回は西伊豆での初めてのプロジェクトとなり、IVUSAと西伊豆との新しい関係を築くことが出来た。

【課題・今後の方向性】

まだまだ、遊歩道に近い区画しか修復作業が出来ておらず、また松の成長もすぐに結果が見えるものではないため、今後とも黄金崎の松林の完全復活に向けて地域の方々とつながりを持って取り組んでいく。

【協力・協賛】

・主催 宇久須まちづくり協議会

・協力 認定NPO法人緑の地球ネットワーク、白砂青松の会、西伊豆町



新潟県長岡市栃尾地区ふるさとづくり活動



【日程】

- 1次隊 4月12日～4月14日
- 2次隊 5月24日～5月26日
- 3次隊 6月7日～6月9日
- 4次隊 6月21日～6月23日
- 5次隊 7月5日～7月7日
- 6次隊 8月1日～8月4日
- 7次隊 8月23日～8月26日
- 8次隊 9月11日～9月14日
- 9次隊 10月25日～10月27日
- 10次隊 11月1日～11月3日
- 11次隊 11月8日～11月11日
- 12次隊 1月17日～1月19日
- 13次隊 2月7日～2月9日
- 14次隊 3月8日～3月11日

【場所】新潟県長岡市

【参加者】延べ577人

【内容】

過疎・高齢化の進んでいる栃尾地域に古民家を借り、IVUSAの学生が定期的に栃尾を訪れ、地域の方との絆を深めながら、若者の視点や情熱で持続可能な地域創りを目指す。さらに、この活動が地域コミュニティの衰退した地域や災害からの復興を目指す地域にとってモデルになるように、発信していく。

【成果】

地域の児童養護施設との年間活動数の増加

【課題・今後の方向性】

2014年度は中越地震から10年目となるため、そのことに対して何らかのアプローチが出来る活動を行なっていきたい。

【協力・協賛】

栃尾同住会、NPO法人UNE、非営利活動法人復興支援ネットワーク・フェニックス、長岡市栃尾地域半蔵金地区、長岡市栃尾地域栃掘地区、長岡市栃尾地域下来伝地区

三重県熊野市活性化活動



【日程】5月4日～5日、6月15日～16日、8月15日～19日、12月21日～22日、3月1日～2日

【場所】三重県熊野市

【参加者】延べ194名

【活動内容】

三重県熊野市を中心として東紀州の地域活性化の活動を応援している。活動は、2011年9月に発生した台風12号の被害に対して災害救援活動がきっかけで、以下の活動に着手している。

- ・熊野市小舟地区の梅の収穫、梅祭りの運営の手伝い
- ・熊野市大迫海岸清掃活動
- ・熊野市大花火大会運営サポート
- ・熊野市飛鳥町の赤紫蘇植え付け
- ・防災キャンプ事前調査



【成果】

・これまで個々の活動として実施していたが、年間チームを発足されることにより、年間を通してネットワークの開拓、事業実施の調整等に着手することができた。

・大花火大会の運営サポートでは、夏のプロジェクトとして100名を派遣することができ、花火大会の運営の面において、警備の体制、交通整理、ゴミの回収などを大幅に従事者を増やすことができ、運営の質が向上した。

・梅祭りや収穫において、収穫の担い手不足を補う活動ができた。
・大泊海岸での活動は、台風の被害で流木やゴミの完全撤去を実施した。

【課題・今後の方向性】

・熊野市観光協会から地域のリソースを用いた商品や花火大会での販売出来る商品を学生のアイデアで開発して欲しいとの依頼を受けている。

・梅の収穫、紫蘇の植え付けなどに従事しているため、オリジナルの梅干しや紫蘇ジュースなどの商品を開発することを提案を受けている。熊野ブランドの確立のお手伝いが出来ればと考えている。

・年間チーム2年目である来年度は、熊野地区に3名の卒業生が就職したこともあり、さらにネットワークの構築、熊野の地域が活性化するような活動を模索していきたい。

【協力・協賛】

熊野市、熊野市観光協会、一般社団法人熊野レストレーション、NPO法人子どもステーション熊野、さとやま農園、尾鷲市観光物産協会、アクティブファーマーズ、NPO法人子どもステーションくまの

利島椿産業保全育成プロジェクト



【日程】1次隊:8月4日～7日 2次隊:8月7日～10日

【場所】東京都利島村

【参加者数】1次隊39名、2次隊43名

【活動内容】

椿油の日本一の生産地である利島が、高齢化によって椿油産業の存続が危ぶまれている中、IVUSAで何か出来ないか、まずは利島の椿産業の作業補助を開始して椿産業の実態に触れる所から活動を開始した。椿の実の収穫の準備のため、椿林の下草刈りの切っ払いを行い、椿油精油所の見学などを行った。

【成果】

約10ヘクタールの椿林の下草切っ払いを行い、また次も来いよと農家に喜んでもらえ、作業と交流を次に繋げられるものを実施できた。

【課題・今後の方向性】

椿油産業の保全育成に対し、主体者ではなくてもサポートできる取り組みを今後も考えていく。作業としては実の収穫や老齢椿の植替更新、拡散広報としてSNS上での隊員それぞれの利島PRなどを行い利島を盛り上げていきながら、椿産業を維持する方策を模索していく。

【協力・協賛】（敬称略・順不同）

・カウンターパート 清水雄太、荻野了、高田裕也、村山将人
・ファンドサポート カネダ株式会社
・各種後方支援協力 利島村役場・東京島嶼農業協同組合・利島建設株式会社・利島村漁業協同組合

第1回お祭りカンファレンス



【日程】2月22日・23日

【場所】立教大学池袋キャンパス、国士舘大学世田谷キャンパス

【参加者】109名

【活動内容】

地域の担い手としてあまり注目されていなかった若者と外国人が祭りを通して地域を活性化している事例を学ぶとともに、今後の地域活性化のあり方について考えることを目的に、基調講演やパネルディスカッション、ワークショップなどを実施した。

・基調講演

平田大六氏（関川村村長）、久繁哲之介氏（地域再生プランナー）

・若者分科会

YOSAKOIソーラン祭り学生実行委員会、立教大学阿部 治ゼミナール、IVUSA

・外国人分科会

ワンコリアフェスティバル、大泉カルナバル、バリヨフィエスタ

・パネルディスカッション

桑原 望氏（長岡市議会議員）、桑原 善雄氏（十日町市役所）

【成果】

行政・企業・大学（教育機関）・NPO・地域などの様々なセクターから日本で祭りを通して地域活性化に取り組んでおられる方々のネットワーク作りの場を提供するとともに、IVUSAの学生たちが自分たちの活動の意味や意義を見直すきっかけとなった。

【課題と今後の方向性】

・一般参加者が少なかった

・今後、立教大学と連携して定例化していきたい

【共催】立教大学ESD研究所



フリーペーパー「Youth-Acty!!」Vol.8の発行



【日程】7月15日発行

【配布場所】関東・関西の大学や全国のボランティアセンター、市民活動センターなど

【配布部数】5,000部

【内容】

今の日本が抱える「労働・雇用」「エネルギーの未来」「若者の政治参画」「社会保障と税」などの分野で、より持続可能な社会の仕組みに転換していくために必要な政策について大学生や若者が議論し、「僕たちのマニフェスト」というタイトルでまとめた。

【成果】

製作のプロセスで、他団体や専門家、政治家などとコネクションを作ることができた。また2012年の衆議院選挙や2013年の参議院選挙に合わせてキャンペーンを行うことで若い世代の政治に対する関心を喚起することができた。

【課題と今後の方向性】

製作にかかるコストを回収する目途が立たないため、しばらく発行は休止する。

【広告協力】

株式会社ソナ

その他の事業

IVUSAでは国際協力・環境保護・地域活性化・災害救援の4つの分野以外にも様々な事業を行っています。

沖縄県での戦没者遺骨収集事業や、地域の福祉関係のイベントへの参加、防災をテーマにしたコミュニティFM向けのラジオ制作やネット放送など多岐に渡ります。

沖縄県戦没者遺骨帰還事業



【日程】2月11日～16日

【場所】沖縄県糸満市

【参加者数】88名

【活動内容】

沖縄県糸満市野戦病院壕での戦没者遺骨収容・慰霊事業、沖縄県戦跡視察、現代版組踊「肝高の阿麻和利」の鑑賞

【成果】

3柱の御英霊をお迎えして当該地の遺骨存在調査完了。戦跡3か所を視察して現代の中高生の舞台を鑑賞し、沖縄の過去から現在、未来への繋がりをみる事ができた。

【課題・今後の方向性】

市街地化・史跡化された地区では収容作業が行えず、また、収容成果が少ないと思われる少数残存箇所までは手が行き届かずお迎えできていない御英霊も散在している。日本の歴史を知り、未来を担う沖縄の中高生の姿に触れ、現在を生きる私達が何を考えるべきか、その機会となるこの事業を引き続き継続していく予定。

【協力・協賛】（敬称略・順不同）

・カウンターパート:国吉勇、浜田哲二、浜田律子

・協力:公益財団法人沖縄県平和祈念財団、特定非営利活動法人日本青年遺骨収集団（JYMA）



厚生労働省主催平成25年度硫黄島戦没者遺骨帰還事業協力（委託事業）



【日程】7月9日～17日、10月22日～30日、2月4日～13日

【場所】東京都硫黄島

【人数】会員延べ6名、一般公募受付24名

【活動内容】

厚労省主催の戦没者遺骨収集・帰還事業の参加者派遣と公募窓口業務

【成果】

戦没者158柱の収容

【課題・今後の方向性】

厚生労働省の事業が継続する間は協力を継続、会員内にも現代史を考える機会として発信していきたい。

【協力・協賛】

主催:厚生労働省、協力:IVUSA

世田谷区市民活動支援コーナー運営（委託事業）



【日時】 通年

【場所】 世田谷区三軒茶屋キャロットタワー3階

【活動内容】

公益財団法人せたがや文化財団より委託を受け、主に世田谷区内で活動している市民活動団体へ、打ち合わせや講義に使えるスペースの貸出や印刷機材の貸し出し等の施設運営。市民活動団体向け防災ワークショップの開催。

【成果】

・延べ3,314件、20,636人の利用、56団体の新規利用登録申込があった。

・支援コーナー運営外に行っている市民活動相談事業では13件のNPO関連や団体運営設立などの相談がありアドバイス・サポートを行った。

【課題・今後の方向性】

2015年度末までが運営受託期間だが、今後もIVUSAの持っているノウハウや資源を活かし、世田谷の市民活動団体とwin-winとなる企画を実施していきたい。

学生お助けボランティア



【日時】 通年

【場所】 世田谷区内

【参加人数】 9名

【活動内容】

草取り、窓拭き、部屋の片付け、庭木の剪定、パソコン教室、模様替え、入力代行など。

【成果】

37件のニーズに対して活動を実施。依頼者（高齢者）もスタッフ（学生）も、作業をしながら対話で交流を深めた。利用者にはリピーターが多く見られ、特定の学生を指名して希望するなど、依頼者と学生間の信用も出来ている。

【課題・今後の方向性】 突発的な依頼に対して即時派遣することが難しく、学生ボランティアスタッフの育成に取り組みつつ、ニーズに対して、責任ある活動を行っていく。

夏休み体験ボランティア2013 in ちよだ運営協力（委託事業）



【日程】 4月～10月（プログラム期間は7月20日～8月31日）

【場所】 千代田区

【人数】 プログラム参加者約400名

【活動内容】

募集チラシやしおりの作成、説明会の運営、感想文集の作成、アンケート結果の集計

【成果】

千代田区内の中・高校、大学に通う多くの学生がボランティアを体験することができた。

【課題・今後の方向性】

学びや継続した活動に繋がる工夫をしていきたい。

【協力・協賛】

主催:千代田区社会福祉協議会ちよだボランティアセンター

災害救援事業・復興支援事業・防災事業

地震・豪雨・竜巻など災害に対するリスクは高まっていて、いつどこで災害が発生してもおかしくない世の中になってきています。そこでIVUSAでは学生のマンパワーや機動力を活かした活動を行っています。この復旧活動から復興支援や地域活性化につながることもあります。

尚、災害救援活動は公益財団法人車両競技公益資金記念財団から助成を受けて行っています。

静岡県西伊豆町水害救援活動



【日程】7月19日～21日、26日～28日

【場所】静岡県西伊豆町

【参加者】123名

【内容】

7月18日未明に静岡県を襲った集中豪雨の影響により、西伊豆町で水害が確認された。この水害に対して、7月19日から救援活動を行った。

【成果】

15件の依頼に対して、作業を完了することが出来た。

新潟県長岡市豪雨災害救援活動



【日程】8月2日～5日

【場所】新潟県長岡市

【参加者】19名

【内容】

2013年7月29日から30日にかけて、全国的に大気の状態が不安定になり各地で大雨による被害が多発しました。新潟県長岡地域では住家、非住家合わせて床上浸水118件、床下浸水523件の被害が発生した。発災直後の7月30日夕方には現地災害ボランティアセンターから、本協会に対して救援活動の依頼がありました。依頼を受け、被災家屋の片づけ等を行うため、8月2日(金)～5日(月)まで救援活動を行った。

【成果】

4件の依頼を受け、作業を完了することが出来た。

山口県萩市豪雨災害救援活動



【日程】8月1日～7日

【場所】山口県萩市

【参加者】61名

【内容】

山口県では2013年7月28日明け方ごろから昼ごろにかけて、局地的に猛烈な雨が降り続いて、1時間に100ミリ以上の記録的な大雨となった。特に萩市では、全壊41棟、床上浸水572棟、床下浸水382棟、計1,126棟の被害が出た。IVUSAは、萩市社会福祉協議会からの要請を受け、復旧活動を行なった。

【成果】

県内被災市町村の中でも重機でなくマンパワーが必要かつ大きな被害が出ていた萩市にて、家屋の運び出し、床下の泥かきなど、住民だけでは対応できないような作業の手伝いを行うことで、被災家屋14軒での作業完了した。

埼玉県越谷市竜巻災害救援活動



【日程】1次隊 9月4日、2次隊 9月21日

【場所】埼玉県越谷市

【参加人数】1次隊 18名、2次隊 41名

【活動内容】

2013年9月2日14時過ぎに、埼玉県越谷市、松伏町、千葉県野田市を中心に竜巻とみられる突風が発生し、住家被害600棟以上の甚大な被害をもたらした。1次隊では瓦礫撤去・運搬・分別等を行い、2次隊では収穫前の田んぼでの瓦礫撤去を行った。

台風18号災害救援活動



【日程】9月17日～23日、28日～29日

【場所】京都府京都市、福知山市、滋賀県高島市、埼玉県越谷市

【参加者】延べ231名

【内容】9月に発生した台風18号は、9月13日以降全国的に大雨と強風を伴い上陸。全国的に大雨による河川の氾濫や土砂崩れ災害を起こし、17日には太平洋上に抜け温帯低気圧に変わった。この台風により広範囲で被害が発生し、全国各所で復旧活動が必要な状態となった。活動場所は、京都府福知山市、京都市山科区、滋賀県高島市、埼玉県越谷市などから要請を受け活動を実施した。

【協力・協賛】

・要請機関

京都市山科区：医療法人 医仁会 老人保護施設 いわやの里

京都府福知山市：社会福祉法人福知山市社会福祉協議会

滋賀県高島市：社会福祉法人高島市社会福祉協議会

埼玉県越谷市：社会福祉法人越谷市社会福祉協議会

・協力 社団法人チャージング

【成果】

各地で被害が出ており、人手が分散する中で、重たい瓦礫、ヘドロの撤去など、地元住民だけでは対応が難しい活動を行うことができ、52件のニーズを完了することができた。

滋賀県高島市 15件のニーズが完了

福知山市大江町 30件のニーズを完了

京都市山科区 1件のニーズが完了

埼玉県越谷市 6件のニーズが完了

【メディア掲載】

関西テレビ 9月21日11：47のニュースにてインタビュー放映

NHK 9月24日7：00おはよう日本にて特集放映



伊豆大島台風26号災害救援活動



【日程】1次隊 11月1日～4日、2次隊 11月8日～10日、3次隊 11月1日5～17日

【場所】東京都大島町

【参加者】1次隊 51名、2次隊 31名、3次隊 59名

【活動内容】

10月16日関東地方に接近した台風26号の記録的な大雨により、東京・伊豆大島（大島町）で16日、大規模な土石流が発生し、17人の死亡が確認された。警視庁によると、ほかに43人の安否が不明。大島町の集計では、全半壊や浸水などの被害を受けた住宅は約280棟に上った。

大島の隣の利島では災害発生のか月前に利島椿産業保全育成プロジェクトを行っていたが、活動の際に懇意になった方々の親族などが大島で被災されており、利島の方々の協力と要請があり、被害の大きかった地域でマンパワーによる復旧活動を行った。

【成果】

・床下のヘドロ掻き出し、敷地内の土砂の掻き出しなど計19件のニーズを完了することができた。

【協力・協賛】（敬称略・順不同）

協力:うさぎや茶房、株式会社高田自動車工場、ホテル白岩

山梨県甲府市豪雪災害救援活動



【日程】2月20日～23日、2月28日～3月2日

【場所】山梨県甲府市、笛吹市

【参加者】延べ129名

【活動内容】

上空の寒気と西日本～東日本の南岸を低気圧が発達しながら通過した影響で、2月14日から15日にかけて各地でまとまった雪が降り、関東地方を中心に停電や歩行者による転倒事故等が相次いだほか、甲信や東北地方では道路などで孤立状態となる事案が多発した。各地で観測史上最大となる積雪により交通機関や道路が不通となり各所で復旧活動が必要な状態になった。

このような状況下、山梨県中道地区住民および山梨県ボランティア協会、笛吹市社会福祉協議会、富士河口湖町社会福祉協議会より、幹線道路以外の生活道路や民家周辺の除雪作業への救援活動要請があり、高齢者が多い集落などで、マンパワーによる復旧活動を行った。

【成果】

・計43件のニーズを完了することができた

・県内被災市町村の中でも、重機による除雪が困難な市街地域、また高齢者が多く住民だけでは生活道路の確保が困難な地域等で、住民だけでは対応できないような作業の手伝いを行うことができた。

【協力・協賛】

協力：甲府市中道地区自治会

宮城県山元町復興支援活動



【日程】

- 第1回 4月26日～29日
- 第2回 5月24日～26日
- 第3回 6月21日～23日
- 第4回 7月5日～7日
- 第5回 8月16日～20日
- 第6回 9月13日～17日
- 第7回 10月4日～6日
- 第8回 11月29日～12月1日
- 第9回 12月20日～22日
- 第10回 1月24日～26日
- 第11回 2月14日～17日
- 第12回 3月15日～19日

【場所】宮城県亶理郡山元町

【参加者数】延べ308人

【活動内容】

東日本大震災から約1年後の2012年4月から月に1回程度の活動を始めた。山元町の沿岸部は第一種危険区域に指定され、特に沿岸部の人口が極端に減少し、地域コミュニティの維持が困難になってきていた。津波による塩害により立ち枯れしたイグネ（家の周囲の防風林）の伐採を中心に活動を行った。

【成果】

- ・イグネの伐採約50本
- ・伐採したイグネを活用したベンチの作成10脚
- ・漁業・農業支援や仮設住宅での餅つき大会の運営補助などを通して住民との交流を図り、学生らしい元気を置いてくる活動が出来た。

【課題・今後の方向性】

現在の東北の支援は、地域おこし・まちづくりといった視点が必要であり、地域のニーズにこたえながら、地域に眠っている資源やアイデアをビジネスの視点を取り入れながら、学生の感性とパワーを合わせた新しいまちづくり、ひとづくりを目指す。

【協力・協賛】

協力：お寺災害ボランティアセンター、普門寺、山元町震災復興土曜日の会

助成：住友商事株式会社 東日本再生ユースチャレンジプログラム

宮城県石巻市金華山復旧支援活動



【日程】9月3日～8日

【場所】宮城県石巻市

【参加者数】90名

【内容】

2011年3月11日に発生した東日本大震災、同年9月21日の台風15号による被害と相まって複合災害の被災地となった島内における復旧活動。御水取り場の天水貯水ダムに堆積した土砂の撤去、表参道への土盛りと整地作業、そのほか神社および周辺的环境整備を行った。



【成果】

御水取り場の天然貯水ダム¹の土砂の撤去（土嚢1万袋以上）、表参道（約300メートル）の修復、12年に一度の巳歳御縁年大祭の行事に参列

【課題・今後の方向性】

災害復旧活動として行ったが、東日本大震災から3年が経ち当時を知る大学生も4年生だけとなる。今年は東日本大震災の被災地での活動に対してIVUSAとして方向性を定めなければならない1年となる。

【協力・協賛】

金華山黄金山神社、鮎川シードリーム、石巻市社会福祉協議会、日本財団学生ボランティアセンター、国境なき奉仕団、ジャパンラブプロジェクト

宮城県気仙沼市復興支援活動



【日程】 3月8日～12日

【場所】 宮城県気仙沼市

【参加者数】 121名

【内容】

気仙沼市主催合同慰霊祭運営スタッフ、地福寺メモリアルナイト運営スタッフ、蔵内港わかめ収穫補助、2011年当時の活動場所や活動先の住民を訪ねる市内フィールドワークなど。

【成果】

一昨年、昨年と3年連続での合同慰霊祭、メモリアルナイトの運営スタッフとして支援を行えた。市内フィールドワークでは、過去に活動したお宅や交流のあった地域の方々に写真や手紙を届けることで、東日本大震災に対する活動の繋がりを実感することができた。

【課題・今後の方向性】

今年は東日本大震災の被災地での活動、特に復興支援活動に対してIVUSAとして方向性を定めなければならない1年となる。

【協力・協賛】

気仙沼市役所、気仙沼市健康福祉センター、地福寺、蔵内之芽組、銀河鉄道株式会社、亀岡観光株式会社



コミュニティFM向けラジオ番組制作・配信



【日程】 通年

【収録場所】 世田谷区

【参加者数】 10名

【内容】

コミュニティFM向けの防災ラジオ番組「大学生が防災ラジオ、はじめました」を制作し、全国45局のコミュニティFM局で週一回放送している。 <http://bousairadio.net/>

【成果】

・フジテレビや東京新聞などに取り上げられた。

<http://www.fnn-news.com/news/headlines/articles/CONN00264477.html>

【課題・今後の方向性】

学生だけで回せる体制を作るとともに、資金調達に力を入れる。

【協力・協賛】

株式会社ジェイクランプ、有限会社ファンサイト

避難所体験訓練（子ども向け防災キャンプ）



【日程】8月1日～2日

【場所】千葉県東金市

【参加者】107名（IVUSA学生33名、九十九里地域の子ども74名）

【活動内容】

九十九里浜全域清掃大作戦にも参加する子どもたちに対して防災教育を主としたキャンプ。仮想避難所の作成、防災キット作成。

【成果】

- ・地域の子どもの参加：5団体74名
- ・集団生活を通じた、お互いを思いやる心の醸成
- ・子どもたちの防災意識の向上

【課題・今後の方向性】

IVUSAが過去21年間で培ってきたスキルや経験を最大限活用した防災教育プログラムの確立を目指す。

【協力・協賛】

大里綜合管理株式会社

廃校再生事業に協力



【日程】2013年7月12日～14日

【場所】宮城県石巻市雄勝町

【参加人数】15名

【活動内容】

公益社団法人Sweet Treat311が主催する事業で、築100年の廃校を再生し、雄勝町や国内外の子どもの学び舎とし、地域コミュニティの再構築の実現を目指す一環として行われました。

作業は教室の床下の土砂・瓦礫の撤去、除草作業を行いました。



小田原ツーデーマーチ2013ライフセービング活動



【日程】11月16日～17日

【場所】神奈川県小田原市

【参加者数】7名

【活動内容】

小田原ツーデーマーチにおける救護スタッフとして参加

【成果】

日本赤十字社小田原支部、東海大学ライフセービング部と連携しイベントの成功に寄与した。

【課題・今後の方向性】

今後同様のイベント救護スタッフの派遣を通じてCMTインストラクターによる実践の場とできるよう努めていく。

防災に関するワークショップ



【日程】2013年8月4日

【場所】川崎市中原区

【活動内容】

川崎市中原区役所において、中原区防災市民会議主催の区民向け防災ワークショップを行った。区民150名が参加し、IVUSA学生が各テーブルの進行役としてDIGとよばれる災害時図上演習を実施。地区ごとにグループを作り、自分の住んでいる地域の地図に避難場所や消火設備、狭隘路や火災延焼の可能性がある場所などをマーキングするなど、首都直下地震の被害想定に基づき地域を分析。発災直後に町がどうなるか。自分たちはどう行動すべきかを地図を囲んで話し合った。



【日程】2013年12月14日

【場所】上智大学

【活動内容】

上智大学が毎年行っているクラブ、サークル所属の代表者を集めている防災講習会において、防災講話とキャンパス防災マップ作りワークショップを行った。各団体2名ずつ、約300名の上智大学生が参加。

大学の管材グループの協力のもと、ホフマンホールと学内の地図と防災施設のデータをもとに、参加した学生たちが自分で防災マップを作っていた。参加した学生たちは、普段気付かなかった消火器やAEDの設置場所などをマップに書き込み、キャンパス内で地震に襲われた時のシミュレーションや帰宅困難者について、安否確認の方法など、発災時の初期対応について学んだ。

尚、この講演会はIVUSAと千代田社会福祉協議会とで取り交わしている「ちよだ災害ボランティアセンターへの協力に関する協定書」に基づき行われている「大学生災害ボランティア養成講座」の一環として、上智大学からの委託契約を受け実施された。



【日程】3月21日

【場所】世田谷区三軒茶屋キャロットタワー5階会議室

【共催】公益財団法人せたがや文化財団

【活動内容】

市民活動防災ワークショップは2回目、前回は大規模災害発生時に避難所に辿り着くまでの想定で、近隣の救助方法や避難所までの経路の図上訓練などを実施。

今回は災害発生後1週間～10日の時期に重点を置き、避難生活などにある程度目途が着いた段階で周囲の環境や状況の情報が入って来て、被災者自らが復旧復興に向けて取り組み始める段階で、普段から市民活動を行っている各団体が持っているノウハウやネットワークをどう活かせるかを考えるワークショップを行った。

講師はIVUSA危機対応研究所所長の宮崎猛志が行い、前半は世田谷区公式発表をもとにした被害想定や、社会福祉協議会など各セクターの動きについて講演を行い、後半は図上訓練で各団体の取り組みの拠点となる場所と対象範囲を地図上に展開していった。

参加者は市民団体の方や個人の方など合わせて32名。それぞれの活動の得意とするジャンルと地域が適度に分散しており、参加者も実際に被災した状況下で自分たちが取り組むべきことについて、はっきりイメージできたという感想をいただいた。また、このワークショップには世田谷区災害対策課長の有馬秀人氏も来場されていて、「緊急時の行政としての対応の不足分は区民の皆様の組織的な取り組みと協力しながら復旧復興に向かっていきたい。事前にこういったワークショップで区民の方の力を見ることができて本当に心強く感じた」というコメントをいただいた。

研修事業・各大学クラブの運営サポート事業

IVUSAでは様々な国や地域で、色々な価値観や考えを持った人々と共に活動を行います。活動をより良いものにするためには、自分たちが行う活動の背景にある社会的課題を知り、多種多様な人々とのコミュニケーションの仕方を学び、万が一のことがあった際に対応できる応急救命などのスキルを身に付けておくことが必要不可欠です。

そのために、IVUSAでは総合的コミュニケーション講習、社会理解講習、危機対応講習の3つの種類の研修を初級・中級・上級の三段階に分けて実施しています。そして、研修を通じて得た価値観や知識、感じたものを活動の場で実践し、その経験を研修でフィードバックすることで、活動に参加して得た経験とスキルをさらに高いレベルで、個々人の成長に繋げることが出来ると考えています。

この、研修と活動の実践の繰り返しを通して、社会で将来活躍できる人材の育成を目指しています。

危機対応講習（CMT=Crisis Management Training）

【初級講座】

・内容 新規入会者を対象とした、新人研修。応急救命の方法と、罹災時の行動に対するイメージ持つ講習。

- ・開催回数 28回
- ・参加者数 1,248人

【中級講座】

・内容 身の回りに起きる危機からプロジェクトや災害救援活動などの事業を実施する際に必要な考え方やリスク管理などの基本的なことについて学ぶ。

- ・開催回数 10回
- ・参加者数 449人

【上級講座】

・内容 CMT中級で行なう災害救援活動時の考え方や、安全管理に対する意識の更なる向上を行うとともに、マネジメントやリーダーシップについても学ぶ。

- ・開催回数 5回
- ・参加者数 115人

【インストラクター養成講座】

・内容 CMTのインストラクターを養成する講座。また、IVUSAのプロジェクトをマネジメントする上で必要なことを学ぶ。

- ・開催回数 1回
- ・参加者数 34人

総合的コミュニケーション講習（HRT=Human Relations Training）

【初級講座】

・内容 新規入会者を対象とした、新人研修。ボランティア活動を行なううえで求められる、コミュニケーション能力を養う講習。

- ・開催回数 28回
- ・参加者数 1,248人

【中級講座】

・内容 自分自身の事を理解するため、自分で自分の事を理解するだけではなく、他者から見た自分がどう見えているかを知る。また、他者とのコミュニケーションで何に留意するかを理解するため、自分だったらどうかということから考え、どういうコミュニケーションをするかを考える。

- ・開催回数 15回
- ・参加者数 226人

【上級講座】

・内容 チームで仕事をしていく上で、計画と実施だけではなく、見直しや改善を考える機会を持つこと、また、情報共有の必要性について理解する。また、上司部下・先輩後輩の関係の中で業務を円滑に進めていくためのコミュニケーション、褒めるということと叱るということの手法や意味を学ぶ。また、研修を通して自分自身のリーダーシップを確立させる。

- ・開催回数 6回
- ・参加者数 112人

【インストラクター養成講座】

・内容 HRTのインストラクターを養成する講座。講習を行なううえでの注意点や進行方法、インストラクターとしての心構えを学ぶ。

- ・開催回数 3回
- ・参加者数 41人

社会理解講習（SRT= Society Reflect Training）

【初級講座】

・内容 新規入会者を対象とした、新人研修。活動を行なう前提となる、ボランティアの必要性や、その社会的課題を学ぶ講習。

- ・開催回数 28回
- ・参加者数 1,248人

【中級講座】

・内容 IVUSAの活動分野である国際協力・環境保護・地域活性化の各分野において、どのような社会的課題があり、その背景にどのような構造的な原因があるかを学ぶ。また、各事業の相互の連関性について理解する。

- ・開催回数 28回
- ・参加者数 731人

【上級講座】

・内容 IVUSAの活動分野である国際協力・環境保護・地域活性化の各分野において、どのような課題解決のための取り組みがあるかを学び、IVUSAのプロジェクトをレベルアップさせていくためには何が必要かを考える。また、プロジェクト立案のための基本的なフレームワークやロジカル・シンキングについても学ぶ。

- ・開催回数 3回
- ・参加者数 34人

【インストラクター養成講座】

・内容 SRT中級講座のインストラクターを養成する講座。講習を行なううえでの注意点や進行方法、インストラクターとしての心構えを学ぶ

- ・開催回数 1回
- ・参加者数 7人

定例会・合宿など



定例会

関東・関西のそれぞれの情報共有や、クラブの垣根を越えた会員間のコミュニケーションと研修を目的に行われます。本年度は、夢企画（学生の「勇気」と「冒険心」と「遊び心」を持った夢を募集し、実現性、独創性、意気込みを含めて大学が審査し、その実行をする企画。IVUSAの原点ともいえる）のプレゼンテーションも実施しました。

【日時】6月16日、6月22日、10月20日、2月1日、2月2日

【場所】都内及び京都府内の大学

【参加者数】関東：465名、関西：613名



合宿

【日時】6月8日～9日、6月1日～2日、12月25日～27日、2月24日～25日、2月28日～3月1日

【場所】豊中市立青少年自然の家「わっぱる」、滋賀県東近江市木地師山の子の家、国立信州高遠青少年自然の家、国土館大学、立命館大学

【参加者数】882名

【活動内容】各種研修の実施、IVUSAの組織運営に関するディスカッション、交流会など

先輩の声～活動の中で何を学んだか？～



宮澤 温志 (写真中央)

18期。立命館大学卒。現在、食品会社に勤務
熊本県天草での流木除去清掃活動、各地災害救援活動、バングラデシュ首都ダッカでの清掃活動、地元滋賀県での里山保全活動などに参加。入学当初は数十名しかいなかった滋賀支部を100人を超えるクラブに成長させ、4年の時には西日本会員統括局長を務めた。

正解がない中で最善を尽くす

ボランティア活動の面白さと難しさは「明確な目的とゴール」がないことです。IVUSAの清掃理念でもある「拾う心より捨てない心」という言葉も目指すべき姿ではありますが、その先に待っている世界は活動している今はわからないところに面白さと難しさが存在していると思っています。

一方で、スポーツというものは「明確な目的とゴール」があります。ゴールを決める、ベストなタイムをだす、その結果をその都度確認することが出来ます。

社会人になってみて思うことは、世の中大半答えがないということです。答えに近いやり方はある、ただそれがベスト（真実）かどうかはわからない。受験勉強の中、ひとつの正解を求めて勉強していたあの頃とは180度違う世界。どのように自己を評価し次のステップを定めていくかが非常に重要な要素だと考えております。

そういった意味でIVUSAの4年間はそれまでの学生生活で経験できなかった「答えのない社会」に対して挑戦できた期間でした。教科書に書いていないことはたくさんあります。それは自分で経験するしかない。4年間の学生生活で成し遂げたものは何もないかもしれません。しかしながら、その経験を今この先も活かしています。

何より人生の楽しみ方を学べた気がします。

行動すれば何かが変わる

IVUSAにいた4年間で多くの人と関わり、人の考えから影響を受けました。普通の大学生だったら、こんなに多くの仲間に出会うこともなく、また、人のことを考えて行動することが出来なかったのではないかと思います。

大学生に出来ることは沢山ありました。でも、行動しなければ何も変わらないということを実感しました。行動してこそ、何か変わるかもしれない。微力でも変化があるかもしれないと思うようになりました。そこから、考え、止まらず、行動してみようと自分でも踏み出せるようになりました。

IVUSAの事務統括の役割を担い、どんな活動でも、準備をしている人がいるから成り立つということを実感しました。準備が9割とよく聞いていましたが、事前準備の大切さを、活動を通じてより感じました。

社会で働くようになり、IVUSAで学んだ、人との関わり、行動力、様々な予想をしての準備の大切さが今自分のためになっています。



鎌田 友理

19期。聖心女子大学卒。現在、小学校教員
環境保護、地域活性化、災害救援、国際協力とジャンルを問わず活動に参加。表に出て何かするというよりは、裏方として調整や情報整理、事務作業などを行うことが多かった。4年の時は本部事務統括を担当。



上堂 由貴

20期。立命館大学卒。現在、メーカー勤務。
海外ではクリーンダッカ大作戦、国内では様々な災害救援活動に参加。
4年の時は、第6回熊本県天草流木撤去活動のプロジェクトリーダーや、本部会員局の関西担当の副局長を務めた。

自分の殻を打ち破る

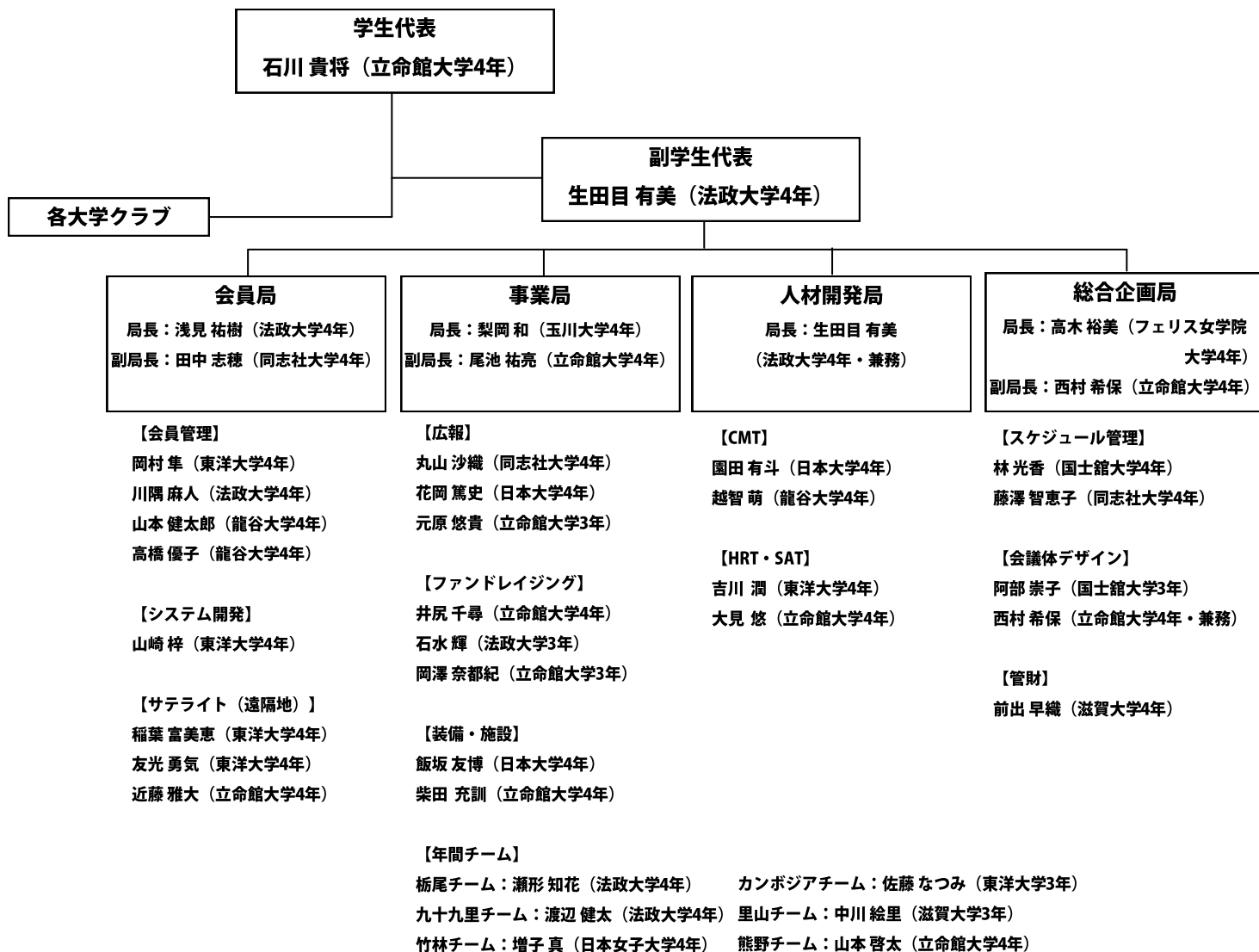
「人には無限の可能性がある」ということを学びました。自身も含め、IVUSAの活動を通じて自分の殻を破り、成長する人の姿をたくさん目にしてきました。

例えば、人前で話すのが苦手だった人が100人の前で定例会の司会をやったり、役員選挙に立候補し200人の前で演説をして聴衆の涙を誘ったり。

リーダーポジションに苦手意識を持っていた人が150人のプロジェクトチームのリーダーをやったり、2,000人をまとめる幹部役員になったり。実は全部私の話ですが。(笑)

こういったきっかけもあり、現在では人の無限の可能性を開花させるお役立ちができるようにと民間企業で人事の仕事をしております。

2013年度（21期）IVUSA学生組織図



関東のクラブ

- 国士館大学世田谷キャンパスクラブ
クラブ長：篠塚洋佑 (国士館大学4年)
- 日本大学砧キャンパスクラブ
クラブ長：稲田 翔 (日本大学3年)
- 法政大学市ヶ谷キャンパスクラブ
クラブ長：萩原 唯奈 (大妻女子大学3年)
- 日本大学三崎町キャンパスクラブ
クラブ長：川島 凌太 (日本大学3年)
- 東洋大学クラブ
クラブ長：作左部 元 (東洋大学3年)
- 東京家政大学クラブ
クラブ長：川島 悠 (東京家政大学3年)
- 明日玉クラブ
クラブ長：佐藤 智美 (明治大学3年)
- 法政大学多摩キャンパスクラブ
クラブ長：齋藤 まりあ (法政大学4年)
- 拓殖大学クラブ
クラブ長：秋山 長寛 (拓殖大学4年)
- フェリス女学院大学クラブ
クラブ長：小林 由実 (フェリス女学院大学4年)
- 神奈川大学クラブ
クラブ長：山中 美恵子 (神奈川大学4年)

関西のクラブ

- 立命館大学衣笠キャンパスクラブ
クラブ長：村田 堯弘 (立命館大学4年)
- 京都産業大学クラブ
クラブ長：秋山 遼 (京都産業大学3年)
- 同志社大学今出川キャンパスクラブ
クラブ長：房岡 葵 (同志社大学3年)
- 龍谷大学深草キャンパスクラブ
クラブ長：泉 勇作 (龍谷大学3年)
- 同志社大学京田辺キャンパスクラブ
クラブ長：疋田 裕二 (同志社大学3年)
- 大阪クラブ
クラブ長：井上 哲貴 (関西大学3年)
- 立命館びわこ・くさつキャンパスクラブ
クラブ長：山崎 空 (立命館大学3年)
- 龍谷大学瀬田キャンパスクラブ
クラブ長：森田 翔 (龍谷大学4年)

※IVUSAでは、会員が10名以上いる大学ごとにクラブを作っています。

各クラブはその大学の会員たちによって自主的に運営され、それぞれの大学や地域に根ざした活動を行っています。IVUSAは活動に対するアドバイスや研修プログラムの提供などのサポートを行っています。

周辺の10人未満の大学のメンバーは、近くの大学クラブに所属し、10人を超えたら分かれて新しいクラブになります。

会計報告

単位：円

【経常収入の部】

1.会費・入会金収入	
入会金収入	4,053,000
学生会費収入	22,266,090
その他の会費収入	725,000
2.事業収入	
国外における初等教育支援や環境保全のための事業収入	35,172,132
国内における災害救援・環境保護・地域活性化などの事業収入	56,941,838
各種研修・講演会の開催事業収入	11,521,156
その他、本会の目的を達成するために必要な事業収入	3,870,643
3.補助金等収入	
民間助成金収入	14,001,851
世田谷区市民活動支援コーナー委託料収入	8,500,665
その他委託料収入	2,640,954
4.寄付金収入	
一般寄付金収入	3,702,887
募金寄付金収入	730,459
5.その他収入	
利息収入	7,457
雑収入	1,680
未収入金収入	299,900
預かり金収入	1,454,841
未払消費税等	829,700
経常収入合計	166,720,253

【経常支出の部】

1.事業費	
国外における初等教育支援や環境保全のための事業費	45,205,107
国内における災害救援・環境保護・地域活性化などの事業費	74,021,079
各種研修・講演会の開催事業費	13,628,480
情報発信・提言事業費	4,426,294
その他、本会の目的を達成するために必要な事業費	11,022,615
2.管理費	
人件費	600,000
賃借費	7,056,300
旅費交通費	2,240,294
車両費	1,173,284
通信費	345,453
消耗品費	1,021,723
諸会費	159,000
租税公課	26,805
支払手数料	142,010
荷造運搬費	194,102
会議費	1,454,596
慶弔費	123,954
水道光熱費	680,913
図書情報費	193,570
業務委託費	3,653,535
リース費	304,200
インターネット関連費	428,876
雑損失	1,809,380
法人税、住民税及び事業税	70,000
雑費	3,000
3.その他の支出	
未払消費税	295,600
預り金支出	1,394,301

経常支出合計	171,674,471
当期収支差額	▲ 4,954,218
前期繰越金	26,324,401
次期繰越金	21,370,183

以下の外貨を含む（日本円換算で552,439円）

5,141ドル（¥534,664 1ドル=104.25円で計算）

5,260インドルピー（¥9,468 1ルピー=1.8円で計算）

7,576ネパールルピー（¥8,307 1円=0.912ルピーで計算）

資料

IVUSAが2013年度行った「現場」での活動時間と参加した会員の所属大学をまとめました。今回は対内的な研修や対外的な事業でもカンファレンスや情報発信、ワークショップ系の事業は除外してあります。

結果、総活動時間は87,279時間になりました。これを単純に三大都市圏の平均時給948円（株式会社リクルートジョブズが2014年4月18日に発表）を掛けて経済価値に換算すると、82,740,492円になります。

国際協力

活動名	総活動時間	参加者大学一覧
第6次カンボジア学校建設活動	3,440	東洋大学、埼玉県立大学、同志社大学、同志社女子大学、同志社大学、神奈川大学、国土館大学、法政大学、関西大学、立命館大学、明治学院大学、京都産業大学、中央大学、日本大学、玉川大学、龍谷大学、拓殖大学
第10次中国緑化プロジェクト	648	神奈川大学、関西大学、国土館大学、滋賀大学、日本大学、法政大学、立命館大学、龍谷大学
第7次インド住宅建設活動	1,971	高崎経済大学、群馬県立女子大学、拓殖大学、立命館大学、神奈川大学、成城大学、フェリス女学院大学、東京家政学院大学、京都経済短期大学、駒澤大学、共立女子大学、日本大学、龍谷大学、同志社大学、就実大学、法政大学、長崎県立大学、京都外国語大学、関西大学
カナダ海洋漂着瓦礫撤去活動～愛、つながりプロジェクト～	1,440	駒沢大学、京都産業大学、神奈川大学、龍谷大学、同志社大学、国土館大学、関西大学、立命館大学、玉川大学、東洋大学、法政大学、長崎県立大学、滋賀大学
ネパール山村支援活動	1,040	フェリス女学院大学、関西大学、駒澤大学、国土館大学、東京家政大学、東洋大学、法政大学、明治学院大学、立命館大学、龍谷大学
留学生との交流会	75	駒澤大学、聖心女子大学、國學院大學、日本大学

環境保護

活動名	総活動時間	参加者大学一覧
第12回九十九里浜全域清掃大作戦	8,664	フェリス女学院大学、関西大学、京都産業大学、共立女子大学、玉川大学、駒澤大学、高崎経済大学、国土館大学、埼玉県立大学、滋賀大学、実践女子大学、昭和女子大学、神奈川大学、跡見学園女子大学、専修大学、大阪学院大学、拓殖大学、中央大学、長崎県立大学、帝京大学、東京家政大学、東洋大学、同志社大学、日本女子大学、日本大学、武蔵野大学、法政大学、明治大学、立命館大学、龍谷大学、國學院大學
第21回多摩川清掃大作戦	1,600	大妻女子大学、神奈川大学、共立女子大学、国土館大学、駒澤大学、昭和女子大学、成蹊大学、成城大学、専修大学、創価大学、拓殖大学、玉川大学、東京家政大学、東洋大学、成田航空専門学校、日本大学、文京学院大学、法政大学、南玉看護専門学校、明治大学、明治薬科大学、立命館大学
滋賀県東近江市里山保全活動	3,811	立命館大学、龍谷大学、同志社大学、京都産業大学、滋賀大学、同志社女子大学、京都外国語大学、共立女子大学、関西大学、長崎県立大学、日本大学
神奈川県横浜市「こどもの国」竹林整備活動	1,832	日本女子大学、日本大学 商学部、東洋大学、専修大学、国土館大学、日本大学 三崎町校舎、法政大学、東京家政学院大学、駒澤大学、共立女子大学、拓殖大学、フェリス女学院大学、跡見学園女子大学、神奈川大学、東京都市大学、共立女子短期大学、國學院大學、立命館大学、玉川大学、京都産業大学、武蔵野大学 武蔵野校地、埼玉県立大学、中央大学、関西大学、龍谷大学、同志社大学、実践女子大学
表浜Blue Walk（協力）	483	龍谷大学、立命館大学、関西大学、京都外国語大学、同志社大学
淀川ワークショップ	861	龍谷大学、立命館大学、関西大学、法政大学、京都産業大学、同志社大学、京都外国語大学、滋賀大学
琵琶湖オオバナミズキンバイ除去作戦	1,236	立命館大学、龍谷大学、滋賀大学、関西大学

地域活性化

活動名	総活動時間	参加者大学一覧
新潟県十日町市清津ピクニックコンサート活性化活動	832	フェリス女学院大学、関西大学、共立女子大学、玉川大学、国土館大学、昭和女子大学、大妻女子大学、拓殖大学、帝京大学、東京家政大学、東洋大学、同志社女子大学、日本女子大学、日本大学、法政大学、立命館大学、龍谷大学
新潟県関川村「大したもん蛇まつり」活性化活動	3,940	フェリス女学院大学、関西大学、京都外国語大学、京都産業大学、共立女子大学、駒澤大学、高崎経済大学、国土館大学、埼玉県立大学、滋賀大学、昭和女子大学、神奈川大学、聖心女子大学、跡見学園女子大学、専修大学、拓殖大学、中央大学、長崎県立大学、東京家政大学、東京女子大学、東京理科大学、東洋大学、同志社女子大学、同志社大学、日本大学、文京学院大学、法政大学、立命館大学、龍谷大学、國學院大學
新潟県関川村「おおいしどもんこまつり」活性化活動	848	立命館大学、法政大学、東京家政大学、東洋大学、国土館大学、日本大学、長崎県立大学、関西大学、龍谷大学、拓殖大学、高崎経済大学、同志社大学
新潟県十日町市「十日町雪まつり」活性化活動	1,680	関西大学、京都産業大学、共立女子大学、玉川大学、国土館大学、滋賀大学、神奈川大学、摂南大学、大妻女子大学、拓殖大学、東京家政大学、東洋大学、同志社大学、日本女子大学、日本大学、法政大学、立命館大学、龍谷大学
新潟県十日町市「雪原カーニバルなかさと」活性化活動	2,240	関西大学、京都外国語大学、京都産業大学、共立女子大学、駒澤大学、群馬県立女子大学、高崎経済大学、国土館大学、埼玉県立大学、滋賀大学、昭和女子大学、神奈川大学、跡見学園女子大学、拓殖大学、長崎県立大学、東京家政大学、東洋大学、同志社大学、日本大学、法政大学、立命館大学、龍谷大学、國學院大學
静岡県西伊豆町活性化活動	1,040	駒沢大学、京都産業大学、神奈川大学、高崎経済大学、跡見学園女子大学、龍谷大学、東京家政学院大学、同志社大学、国土館大学、関西大学、拓殖大学、東京都市大学、立命館大学、日本大学、玉川大学、群馬県立女子大学、実践女子大学
新潟県長岡市栃尾地区ふるさとづくり活動	11,178	東京家政学院大学、専修大学、東京家政大学、東洋大学、国土館大学、法政大学、フェリス女学院大学、龍谷大学、拓殖大学、日本大学、立命館大学、大妻女子大学、神奈川大学、滋賀大学、同志社大学、帝京大学、京都産業大学、同志社大学、日本女子大学、日本大学、跡見学園女子大学、共立女子大学、中央大学、玉川大学、埼玉県立大学、駒澤大学、関西大学、一橋大学、実践女子大学、昭和女子大学、聖心女子大学、上智大学、大阪学院大学、城西大学、同志社女子大学、國學院大學、京都女子大学、国土館大学、共立女子短期大学、高崎経済大学
三重県熊野市活性化活動	4,718	龍谷大学、立命館大学、同志社女子大学、関西大学、京都産業大学、京都外国語大学、同志社大学、東洋大学、日本大学、長崎県立大学、滋賀大学、法政大学、国学院大学、東京家政学院大学、共立女子大学
利島椿産業保全育成プロジェクト	1,136	フェリス女学院大学、関西大学、京都外国語大学、玉川大学、国土館大学、滋賀大学、神奈川大学、拓殖大学、長崎県立大学、東京家政学院大学、東京家政大学、東洋大学、同志社大学、日本大学、法政大学、立教大学、立命館大学、龍谷大学

災害救援・防災

活動名	総活動時間	参加者大学一覧
静岡県西伊豆町水害救援活動	1,712	高崎経済大学、駒澤大学、拓殖大学、国土館大学、東洋大学、日本大学商学部、フェリス女学院大学、東京家政学院大学、玉川大学、法政大学、立命館大学、跡見学園女子大学、神奈川大学、滋賀大学、龍谷大学、大妻女子大学、共立女子大学、京都産業大学
新潟県長岡市豪雨災害救援活動	1,360	高崎経済大学、駒澤大学、国土館大学、法政大学、拓殖大学、関西大学、東洋大学、同志社大学、神奈川大学、明治大学、実践女子大学、玉川大学、日本大学商学部、立命館大学、共立女子大学、日本女子大学、龍谷大学、上智大学

山口県萩市豪雨災害救援活動	1,688	立命館大学、龍谷大学、関西大学、京都外国語大学、同志社大学、滋賀大学、玉川大学、拓殖大学、日本大学、国士舘大学、駒沢大学、京都産業大学、長崎県立大学
埼玉県越谷市竜巻災害救援活動	312	龍谷大学、立命館大学、京都産業大学、滋賀大学、長崎県立大学、関西大学、同志社大学、同志社女子大学、京都女子大学、東洋大学、玉川大学、神奈川大学、国士舘大学、専修大学、明治大学、日本大学、法政大学、東京家政学院大学、埼玉県立大学、拓殖大学、フェリス女学院大学、高崎経済大学、共立大学
台風18号災害救援活動	2,904	龍谷大学、立命館大学、京都産業大学、滋賀大学、長崎県立大学、関西大学、東洋大学、同志社大学、同志社女子大学、京都女子大学
伊豆大島台風26号災害救援活動	2,080	フェリス女学院大学、玉川大学、駒澤大学、高崎経済大学、国士舘大学、埼玉県立大学、実践女子大学、城西大学、神奈川大学、専修大学、拓殖大学、東洋大学、日本大学、武蔵野大学、法政大学、立命館大学、龍谷大学
山梨県甲府市豪雪災害救援活動	2,688	フェリス女学院大学、関西大学、京都外国語大学、京都産業大学、玉川大学、駒澤大学、群馬県立女子大学、高崎経済大学、国士舘大学、埼玉県立大学、滋賀大学、城西大学、神奈川大学、跡見学園女子大学、専修大学、拓殖大学、長崎県立大学、東京家政大学、東洋大学、同志社大学、日本大学、法政大学、立命館大学、龍谷大学
宮城県山元町復興支援活動	6,584	フェリス女学院大学、関西大学、京都産業大学、共立女子大学、玉川大学、群馬県立女子大学、高崎経済大学、国士舘大学、埼玉県立大学、滋賀大学、実践女子大学、昭和女子大学、城西大学、神奈川大学、青山学院大学、跡見学園女子大学、大妻女子大学、拓殖大学、中央大学、帝京大学、東京家政大学、東洋大学、同志社女子大学、同志社大学、日本大学、武蔵野大学、法政大学、立命館大学、龍谷大学
宮城県石巻市金華山復旧支援活動	4,494	大妻女子大学、関西大学、神奈川大学、京都外国語大学、国士舘大学、駒澤大学、滋賀大学、高崎経済大学、拓殖大学、玉川大学、同志社女子大学、同志社大学、東京家政大学、東洋大学、長崎県立大学、日本大学、フェリス女学院大学、立命館大学、龍谷大学、法政大学
宮城県気仙沼市復興支援活動	4,920	跡見学園女子大学、神奈川大学、関西大学、北里大学、京都外国語大学、京都産業大学、共立女子大学、国士舘大学、埼玉県立大学、滋賀大学、実践女子大学、高崎経済大学、拓殖大学、東京家政大学、同志社女子大学、同志社大学、東洋大学、長崎県立大学、日本大学、法政大学、立命館大学、龍谷大学
避難所体験訓練（子ども向け防災キャンプ）	528	フェリス女学院大学、共立女子大学、国士舘大学、神奈川大学、専修大学、拓殖大学、東京家政大学、東洋大学、同志社大学、日本女子大学、日本大学、法政大学
小田原ツーデーマーチ2013ライフセービング活動	112	神奈川大学、国士舘大学、日本大学
廃校再生事業に協力	144	高崎経済大学、大妻女子大学、東京家政学院大学、玉川大学、国士舘大学、日本大学、拓殖大学

その他の事業

活動名	総活動時間	参加者大学一覧
沖縄県戦没者遺骨帰還事業	1,720	フェリス女学院大学・関西大学・京都女子大学・共立女子大学・駒澤大学・国士舘大学・滋賀大学・神奈川大学・拓殖大学・長崎県立大学・東京家政学院大学・東洋大学・同志社女子大学・同志社大学・日本女子大学・日本大学・文京学院大学・法政大学・明治学院大学・立命館大学・龍谷大学
硫黄島戦没者遺骨帰還事業	1,320	神戸市外国語大学・星城大学・大阪大学・東京大学・同志社大学・日本大学・福岡県立大学・法政大学・名古屋大学・立命館大学・國學院大學

2013年度年次報告書

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

本部事務局 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂1-34-4 ザ・アゼリアハウスB-102
Tel/Fax 03-6751-2683

関西事務局 〒569-1121 大阪府高槻市真上町1丁目1-18 Insist21-3B
Tel 072-601-5109

E-mail ivusa-office@ivusa.com URL <http://www.ivusa.com/>

FACEBOOK <http://www.facebook.com/npoivusa>

Twitter @IVUSA_OFFICE